

国の天然記念物カンムリウミスズメの 基礎データ収集と保全活動

枇榔島調査研究会は長年にわたり、カンムリウミスズメの世界最大の繁殖地である枇榔島の保全活動を行うとともに、枇榔島および小枇榔における動植物の現状や新知見の記録・保存に取り組んでいます。

【活動背景】

国の天然記念物で絶滅危惧Ⅱ類に指定されているカンムリウミスズメは2つの危険にさらされています。1つは釣人が残す残飯や撒餌が原因で島に飛来したカラスによる卵や親鳥の捕食。もう1つが漁業による混獲です。その実態を調査し、対策を講じることが求められています。

【活動目的】

カンムリウミスズメの世界最大の繁殖地である枇榔島の保全と、その繁殖地での繁殖生態の基礎データの取得を目的として、行動の観察や調査を行います。得られた基礎データを解析して、世界一の繁殖地である枇榔島の保全と存続を確固たるものにし、最終的には枇榔島全体を国の天然記念物にすることを目指します。



カンムリウミスズメ



枇榔島



枇榔島調査研究会

【助成金の用途・活動結果】

当財団からの助成金は、鳥に装着するGPSロガーの費用等に充てていただきました。活動では産卵、抱卵状態及び孵化状況確認の巣穴チェック調査、モニタリングカメラの点検、標識、GPSを付けた鳥の回収、分析を行いました。

標識調査では、カンムリウミスズメの推定寿命が26年の個体が再捕獲され最長寿記録が更新されました。また♀より♂の方が長生きであることも解りました。さらにGPSのデータからは餌場の位置について有益な情報を得ることができました。

【団体からのメッセージ】

漸く1例のGPSデータが回収され、混獲問題に踏み込むことが出来そうです。そのためにはさらに多くの回収されたデータが必要です。まだまだ調査を続けます。天然記念物指定については文科省（国）や文化財課（県）と相談しながら、門川町を説得していきたいと思っています。

親鳥と孵化後2日目のヒナは、このまま大海原へ出ていく。